

東日本大震災における当社グループの活動について

東日本大震災でお亡くなりになられた方々へお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い被災地の復興を心よりお祈り申し上げます。

当社グループでは「何かお手伝いできることがあるはず！」と考え、震災直後から当社グループなりの活動をさせていたっています。災害発生後の対策本部の立ち上げ、被災地状況の確認から支援物資の搬送、ボランティアへの参加などを実行し、今後も継続的に活動して参ります。活動を通じて知り得た情報、刻一刻と変化する被災状況などをより多くの方々に知っていただき、少しでも関心を寄せていただけるよう活動内容を逐次報告させていただきます。

(記載内容については最新記事より順に掲載しています。)

当社グループ共通の基本支援事項

- ✓ 被災地従業員へ特別休暇を付与しています
- ✓ ご家族などの安否確認に伴う特別休暇の付与と帰省費用の補助をしています
- ✓ 被災地従業員、そのご家族の居住空間を含めた生活バックアップをしています
- ✓ 災害特別見舞金の設定をしています
- ✓ 震災支援金の募集をしています
- ✓ メンタルサポートを実施しています
- ✓ ボランティア活動への積極参加と支援を行っています

当社グループの活動に賛同と協力をいただきました企業様に、この場を借りて御礼申し上げます。

- 国際興業観光バス(株) <http://kk-kankobus.jp/>
- 大松荘 <http://www.daimatsuso.co.jp/>
- 河鹿荘 <http://www.kajikaso.com/>
- 岩沼屋 <http://www.iwanumaya.co.jp/>
- (有)毘龍レンタカー <http://www.biryubus.co.jp/>
- (株)西方石油店
- 古窯 <http://www.koyoga.com/>
- 廣谷建設(株) <http://www.hirotani.net/>

〈グループ会社とその略称〉

テクノプロ・ホールディングス(以下略称、THD)/シーテック(以下略称、Ctec)/テクノプロ・エンジニアリング(以下略称、TPE)/CSI/ハイテック(以下略称、Hitec)/エヌ・アンド・シー(以下略称、N&C)/キャリア・エンジニア・サービス(以下略称、CES)/プレミア・スマイル(以下略称、Smile)

インデックス

[2011年8～12月 節電「少しでも少なく」運動とベルマーク「少しでも多く」運動への取組み](#)

[2011年5月18日\(水\)～31日\(火\) 第2次ボランティアチームの活動報告](#)

[2011年4月21日\(木\) 第1次ボランティアチームメンバーの声](#)

[2011年4月15日\(金\) グループ会社において黙禱を捧げ、義援金を募集](#)

[2011年4月13日\(水\) 統括会社 CEO 被災地に入りボランティア活動を実施](#)

[2011年4月13日\(水\) いわき支援を実施](#)

[2011年4月11日\(月\)～21日\(木\) 第1次ボランティアチームの活動報告](#)

[2011年4月7日\(木\) 第1次ボランティアチーム被災地へ出発](#)

[2011年3月31日\(木\) 被災地にいる従業員の一時帰省支援と第3チームの帰京](#)

[2011年3月29日\(火\) 塩釜ボランティアセンターにおけるヒアリングとボランティア活動](#)

[2011年3月25日\(金\) 従業員家族安否確認のため被災地へ追加便を手配](#)

[2011年3月24日\(木\) 第3チーム被災地へ向け出発](#)

[2011年3月23日\(水\) 被災地日用品の協力依頼の結果](#)

[2011年3月22日\(火\) 被災地日用品不足に伴う協力依頼](#)

[2011年3月19日\(土\) 第1チームガソリン不足の状況下で無事帰京](#)

[2011年3月17日\(木\) 3\)福島原発地域からの従業員退避](#)

[2011年3月17日\(木\) 2\)帰京および従業員一時避難](#)

[2011年3月17日\(木\) 1\)第1チーム、盛岡にて御家族の安否を確認](#)

[2011年3月16日\(水\) 2\)被災地へ到着](#)

[2011年3月16日\(水\) 1\)仙台市内におけるガソリン不足を目の当たりに](#)

[2011年3月15日\(火\) 従業員避難および御家族の安否確認を実施\(第2チームの現地入り\)](#)

[2011年3月14日\(月\) 現地状況確認\(第1チーム現地入り\)](#)

[2011年3月11日\(金\) 地震発生と対策本部の設置](#)

2011年8～12月 節電「少しでも少なく」運動とベルマーク「少しでも多く」運動への取組み

当社グループでは、「Save Electricity 2011」と称し節電「少しでも少なく」運動、「Bellmark2011」と称しベルマークを収集して被災地の小学校を支援する「少しでも多く」運動に取り組んでいます。また、お客様にも呼びかけ、ご協力を頂いています。

Save Electricity 2011

震災来、電力供給力が低下し、各地で電力不足が懸念されており、全国的な節電が求められています。個人宅15%の節電を全従業員とお客様へ呼びかけ、電気使用量が多くなる個人宅での8月分電気使用量に9月分電気使用量と10月分電気使用量を比較し、節電率15%以上の達成を目指すものです。

Bellmark2011

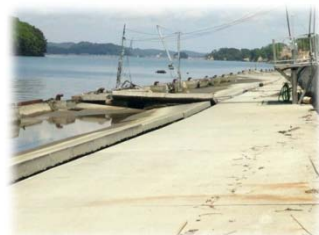
ベルマークとはベルの形が入った小さなマークのことです。運動に協賛している会社はおよそ60社に及び、2000種類の商品についています。約50年も続いている歴史ある運動であり、教材や設備がたりない学校を応援するために1960年に生まれました。自分たちが使う品物を買って集めたベルマークが助け合いにも役立つこの仕組みを取り入れ、当社グループ各拠点(支店/営業所)にベルマーク回収箱を設置し、協力頂いたベルマークを集約をして被災地の小学校等に送り、今後の復興に役立ててもらおう取組みです。12月にベルマークの回収集計を予定しています。

ベルマークがついている製品は下記URL参照。

http://www.bellmark.or.jp/img/promotion/index/2011_1_2.pdf

2011年5月18日(水)～31日(火) 第2次ボランティアチームの活動報告

第2次ボランティアチームは、前後半 2 班のチームを編成し、引き続き塩竈市でボランティア活動を行いました。今回は本土の塩竈市での民家の家財道具の運び出しやヘドロの掃き出し、崩れたブロック塀や土留めの搬出に加えて、離島で初の活動を開始。浦戸諸島の桂島と寒風沢島では、民家・民宿および主要産業の牡蠣や海苔の養殖の作業場に於いて、優先順位の高い家具、家電、ブロック、鉄筋やコンクリートの固まりといった重いものの撤去と運搬作業に専念しました。寒風沢島では、2箇所で防波堤が決壊。地震による地盤沈下で水田が海の一部と化していたり、潮が満ちると民家の玄関前の道路が水浸しになったりするところもあります。次なる津波から守るためということもあり、自衛隊は決壊部分を一時的に塞ぐ作業をしています。私たちも自衛隊から鉄筋を切る機械を借り、崩れた鉄筋入りブロック塀を破壊して撤去。そのがれきを決壊部分に運ぶ作業もしました。最終日は台風で島へ渡れなかったため、本土のボランティアセンター内部の片付けを手伝いながら待機を続け、今回の活動は終了しました。



桂島の様子

寒風沢島の様子

2011年4月21日(木) 第1次ボランティアチームの声

第1次ボランティアチームメンバーよりたくさんの方が寄せられていますので紹介します。

「ボランティアに携わったすべての皆様、本当にお疲れさまでした。16日間、正直あつという間でした。一度きりの人生を大切にしたいと思います。」

「物があふれている時代だが、物の大切さを忘れてはいけない。様々な物があるからこそ人は不自由なく、不便なく暮らせる。」

「別れの朝、皆さんとても穏やかな表情です。何をなしえたのかはこれから自分自身で消化していかなければと思っています。関係各位に深く感謝します。」

「メンバーはそれぞれの思いを胸に秘め、塩釜からの帰路につきました。全ての関係者に感謝をし、今後も支援活動が続くことを切に願います。」

第1次ボランティアチームチームリーダーは、「ボランティアとはどこまでを言うのか？現場での作業、サポートいただいた会社の方々、心配する家族、友人、お世話になった旅館の方々、様々な人の協力があってこそ成り立つもの。役割は違っても皆が主役であり、一人ひとりがやれることをやればよい」と締めくくってくれました。



ジャンパーへの寄書



移動中の車内の様子



ボランティア活動魔の朝礼風景



ボランティアセンターの方々との集合写真

2011年4月15日(金) グループ会社において黙祷を捧げ、義援金を募集
全グループ会社において黙祷を捧げ、義援金の募集を開始いたしました。

2011年4月13日(水) 統括会社 CEO 被災地に入りボランティア活動を実施
グループ統括会社の CEO であるキース・ミッチェルも自ら被災地へ赴き、従業員への激励とボランティアへの積極参加をさせていただきました。



キース CEO

2011年4月13日(水) いわき支援を実施

福島原発事故による緊張が続く福島県内において支援を行いました。いわき市街地では地震による被害は沿岸部と比較すると確かに少なく見えました。しかし、港近隣はやはり目を覆いたくなる惨状が広がっているのが現実でした。いま、復旧へ向け懸命の活動が続いています。このような状況の中、福島原発を抱え余震が続き、断続的な断水に加え停電など、精神的なストレスは想像を絶します。ある従業員のご家族は、「日中一人で常に恐怖を抱きながら生活している」と語っていました。そんな中、従業員へは家族を含めたメンタルヘルスの案内を行い、被災地へ支援物資を届けた後、いわきにおける現状を肌で感じながら無事、翌4月14日に帰京しました。



福島県沿岸部の様子

2011年4月11日(月)～21日(木) 第1次ボランティアチームチームの活動報告

4月11日(月)大震災発生より1ヵ月が経過したこの日から、チームは本格的ボランティアを開始しました。第1次ボランティアチームメンバー15名すべてが1軒のお宅にて、泥だし・片付けを実行するものの人手が足りず、他から参加しているボランティアメンバーも合流して作業にあたらなくては片付かない状況だったとのことです。また、滞在期間中に料亭・醤油屋さん・洋服屋さんの片付けを実施。床板をはがし、手作業で泥をかき出し、土嚢袋へ詰めて運ぶことの繰り返しでした。被災地へ赴いた直後のメンバーは、「被災地へ赴き、実際に目で見えた光景は言葉にならない。黙々と作業をすることしかできなかった。作業終了後、おじいちゃんに深々とおじぎをされ、胸を打たれました」「今まであった日常が一瞬で失ってしまう怖さを実感し、当たり前の日常をもっと大切にしたいと思った」と語っていました。



ボランティア活動の様子

2011年4月7日(木) 第1次ボランティアチーム被災地へ出発

グループ内従業員有志によるボランティアチームが発足し、社も全面協力しました。第1次ボランティアチームは被災地へ向け出発。余震の影響で、目的地のボランティアセンターでのボランティアは一時中止されるものの、宿泊先大松荘様周辺のお手伝いを実施しました。余震はなおも続き、チームの判断により安全を優先し、一時米沢へ宿泊先を変更しました。いったん米沢に移動させた宿泊先ですが、少しでも活動しやすくするため、宮城県仙台市の岩沼屋様へ変更しました。



第1次ボランティアチーム出発風景

2011年3月31日(木) 被災地にいる従業員の一時帰省支援と第3チームの帰京

被災地にいる従業員の一時帰省支援に合わせて、第3チームが帰京しました。

2011年3月29日(火) 塩釜ボランティアセンターにおけるヒアリングとボランティア活動

当社グループ従業員による有志のボランティアチームの立ち上げにあたり、現地のボランティア受け入れ状況の確認と実際の作業について情報を得るため、塩釜市災害ボランティアセンターを訪問しました。その際にボランティア活動に参加させていただきました。



塩釜ボランティアセンターとボランティア活動風景

2011年3月25日(金) 従業員家族安否確認のため被災地へ追加便を手配する

東北地方に実家を持ち、第1チーム～第3チームと日程に折り合いのつかなかった従業員の声に応えるべく追加便を走らせ、翌日26日に第3チームの一部従業員を乗せ、無事帰京しました。

2011年3月24日(木) 第3チーム被災地へ向け出発

従業員が持ち寄った日用品と追加救援物資の被災地への運搬。および、当社各グループ会社における復旧活動の応援、従業員一時帰省の協力。そして被災地におけるボランティア受け入れ状況の確認などを目的とし、被災地へ向け出発しました。



第3チーム出発風景



支援物資



2011年3月23日(水) 被災地日用品の協力依頼の結果

社員一同による協力のもと、カセットコンロ 30 個、ガスボンベ 116 本、電気ポット 20 個、タオルダンボール 3 箱、歯ブラシダンボール 1 箱が集まりました。ご協力を頂いた従業員の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

2011年3月22日(火) 被災地日用品不足に伴う協力依頼

被災地においてカセットコンロ、ガスボンベなどの品が不足しているとの情報がありました。これらの品は被災地だけでなく全国的にも品薄であり、購入が困難な状況のため、各ご家庭にあるカセットコンロなどを被災地へ届けるために協力を依頼しました。

2011年3月19日(土) 第1チームガソリン不足の状況下で無事帰京

第1チームは終始ガソリン不足に悩まされながら、往路と同じ新潟経由で東京を目指しました。この頃はまだ、新潟県内では普段通りに給油を行うことが可能で、無事帰京することができました。

2011年3月17日(木) 3)福島原発地域からの従業員退避

福島原発地域に緊張が走るなか、福島県いわき市付近の従業員およびご家族を山形県米沢市へ避難誘導しました。いわき市を3月17日11:00頃出発し、米沢市へは同日18:00に到着しました。

2011年3月17日(木) 2)帰京および従業員一時避難

第2チームは被災地において避難を希望する従業員およびご親戚の方々を、帰路で同乗していただき、3月17日(木)に無事帰京しました。

2011年3月17日(木) 1)第1チーム、盛岡にて御家族の安否を確認

第1チームに同乗した、東北地方にご両親がお住まいの従業員とともに盛岡へ出発しました。

2011年3月16日(水) 2)被災地へ到着

3月15日に出発した第2チームは3月15日、活動拠点としている米沢河鹿荘に入り、翌16日、被災地へ救援物資を届けました。



仙台支店 1F ロビーの様子



七ヶ浜住宅地の様子

2011年3月16日(水) 1)仙台市内におけるガソリン不足を目の当たりに

先発していた従業員は二手に分かれ、1チームは当グループ仙台合同支店へ到着し、一部の救援物資を支店へ搬入しました。同時に周辺状況や支店内およびビルの被災状況の確認を行いました。仙台市内は深刻なガソリン不足に陥っており、もう1チームはガソリン確保に1日を費やすほどの状況でした。

2011年3月15日(火) 従業員避難および御家族の安否確認を実施(第2チームの現地入り)

被災地に居住する従業員の避難と従業員ご家族の安否確認を目的として、大型バス1台に有志2名の社員および東北に実家を持つ社員2名、救援物資(食糧・日用品など)を乗せ仙台を目指し出発しました。(以降、第2チームと称す。)一方、前日米沢に到着している第1チームは現地での活動をより効率的に実施すべく、2tトラックを借りる手はずを整えました。

2011年3月14日(月) 現地状況確認(第1チーム現地入り)

従業員の安否確認を第一優先課題とし、さらにより正確に現地の状況を把握すべく現地入りを計画しました。しかし、東北地方へ向かう公共交通機関はすべてストップ。そこで、乗用車2台に有志5名の社員および東北にご両親がお住まいの従業員2名と救援物資(食糧・日用品など)を乗せ、東北方面への高速道路が通行止めであることから、新潟・山形を経由するルートで被災地へ向け出発しました。(以降、第1チームと称す。)同日、山形県米沢市に到着し、米沢を起点として活動を開始しました。



河鹿荘様

2011年3月11日(金) 地震発生と対策本部の設置

THD、Ctec、TPE、CSI、Hitec、N&C、CES、Smile において「東日本大震災対策本部」を設置。全従業員およびご家族の安否確認を実施しました。あわせて、より正確な被害状況と被災状況を把握すべく、現地調査チームの立ち上げと支援物資の運搬手段の確保を検討。翌3月12日、13日で準備を完了させ、3月14日(月)現地へ向け出発しました。

以上
